

【2022年度】岐阜協立大学大学院 職業実践力育成プログラムに係る自己点検・評価

〔概要〕

プログラム名：トヨタ生産方式とカイゼンリーダー養成プログラム

実施期間：第4期 2022年 4月 8日～2022年 6月 4日

第5期 2022年 7月26日～2022年12月16日

第6期 2022年10月21日～2023年 3月 1日

第7期 2022年10月27日～2023年 3月23日

《別紙 カリキュラム参照》

受講者総数：名（第4期 9名、第5期 14名、第6期 12名、第7期 13名） 《別紙 受講者リスト参照》

履修証明書交付：44名

評価項目	プログラム実施組織による自己点検・評価	エビデンス
1. 教育課程(プログラム実施状況、カリキュラムの妥当性)	■当プログラムは学校教育法第105条に規定する特別の課程に対応し、職業(カイゼンリーダー)に必要な実践的・専門的な知識を修得するために体系的な教育課程を擁している。 ■企業等が職員の能力向上を目的として参加できる課程であり、受講者の状況からみても、特定の企業や団体のみを対象とする課程ではない。 ■受講生若しくは企業等のニーズに対しても十分な配慮がされるなど、適正に運営されていると判断できる。	・カリキュラム ・リーフレット ・受講者リスト
2. 職業の種類及び身につけることのできる能力	■当プログラムは職業の種類を「カイゼンリーダー」と指定している。 ■身につけられることのできる能力を募集要項で明示しホームページで公表している。 ■プログラム修了時に、履修証明書を付与し当該プログラムの修了者が社会的に評価されるための工夫を行っている。	・職業実践力育成プログラム文部科学省申請書(様式1) ・募集要項
3. 実務に関する知識、技術及び技能の修得	■当プログラムは、トヨタ生産方式による生産革新活動を実践する専門職として「カイゼンリーダー」を位置づけ、生産性改革活動を整備・推進する人材として養成するため、理論に関する科目と実践に関する科目の融合を強く意識したカリキュラム構成となっている。	・職業実践力育成プログラム文部科学省申請書(様式2)
4. 企業等と連携して行う授業等、実践性の高い授業の実施状況	■当プログラムは企業等と連携して実践性の高い授業を実施している。履修141時間のうち、140時間(99%)は、文部科学省が定める実践性の高い授業に該当している。 ■実践的な方法による授業については、シラバスに具体的に明記しホームページで公表している。	・専門実践教育訓練講座指定等通知書 ・シラバス
5. 教育成果(身に付ける能力を修得したか)	■当プログラムは修了要件を募集要項に明示してホームページで公表している。 ■評価はセッション(全6回)ごとの課題研究レポート提出と、修了試験として「カイゼン発表」および「筆記試験」をもって受講者の評価を行い身につける能力の修得度合いを測っている。	・募集要項 ・カリキュラム
6. 学生支援(学修支援体制・学修支援状況)	■担当教員は、受講生の負担や不利益にならないよう、授業時間や日時において適宜調整を行っている。例えば予定日に業務などが入って欠席せざるをえない受講生がいるときは、補講などの配慮を行った。 ■受講生への諸連絡は、事務局(教務課)より個別に行い、受講日以外の受講生からの問い合わせについても、教員・事務局(教務課)双方で支援体制を整えている。	・事務局からの案内メール

7. 組織運営(教育組織の適切性・妥当性など)	■教育組織は、実務経験の豊富な教員を配置し、適切に機能している。 ■プログラム運営などについては、共有されるべき情報を教員間で把握し、適切性や妥当性についての検証および組織的な観点からの工夫・改善により一層努められるよう、研究科委員会、教育研究推進懇談会議での事業報告を実施している。	・山田講師履歴書 ・研究科委員会/教育研究推進懇談会議議事録
8. 施設設備(施設及び設備の整備状況)	■2022年度は4・5・6期については遠隔地(下呂市)でのプログラム実施となったが、7期については近隣(大垣市、各務原市)での実施となった。施設設備は地元の実習先企業の協力により、座学・実習ともに受講者の利便性を損なうことのない会場を準備できた。 ■今後は、上記に挙げたように実習企業の好意的なプログラムへの協力が、効果的・効率的な施設設備の整備にもつながるため、実習企業の開拓に努力する。	・カリキュラム ・セッションごとの内容
9. 広報活動(受講生の募集・広報活動)	■担当教員の協力のもと、企業、公的機関、社団法人などに案内し受講生の募集を行った。 ■2022年度は、大学が本拠をおく西濃圏域で開催ができた。定員充足のために、受講生の募集・広報活動をさらに充実させることに努めた。	・リーフレット
10. 内部質保証(内部質保証システムは有効に機能しているか)	■受講生はインストラクション実践シートおよび各セッション後に課される研究課題レポートをもとに、自身の学修成果を発表する機会が複数あり、担当教員と他の受講生からの評価を得て自身の学修成果を確認できた。 ■セッションの期間中、受講生の率直な意見を担当教員が聞く機会を毎セッション設け、教員間で適宜話し合うようにしている。	・インストラクション実践シート
11. 企業等の意見を聴くための仕組みの整備	■当該プログラムは実施にあたり、教育課程とプログラムの運用等について教育研究推進懇談会議において意見を聴き、企業等の意見を組織的に取り入れる仕組みを構築した。 ■2022年度実施事業の自己点検・評価のため、教育研究推進懇談会議で報告し企業等の意見を聴き、今後の教育課程 およびプログラム運用等に活用している。	・教育研究推進懇談会議議事録